

京都教区時報

第173号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
編集 カトリックきょうと福音センター 住所 京都市中京区壬生瀬田町26 Tel 822-7123

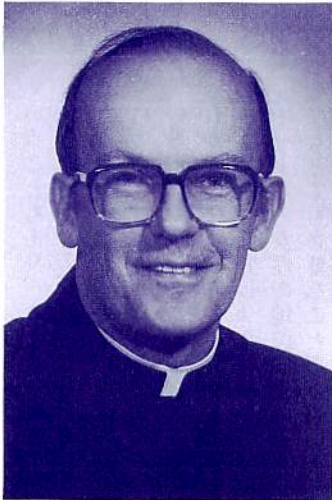
みなさま、こんにちは

主任司教着任にあたって

京都司教区の皆様にご挨拶をいたします。
私はメリノール宣教会の司教でベートーベンやモーツァルトではなくて、チャイコフスキー神父です。はじめまして、どうぞよろしく。

9月1日から、この素晴らしい衣笠聖霊カトリック教会の主任司教になったことは、なんと嬉しいことでしょう。聖霊である神様に対する深い信心を持っている私は、感謝の気持ちのうちに、東京のメリノール本部からこちらへ来ました。感謝の気持ちというのは、神様への感謝とこの教区で働かれたすべての神父様(特に衣笠教会前主任司教のウォルケン神父様)と信者であるあなたがたへの感謝です。この京都教区が創立された時から今までの間、神様が皆さんの上に、かずかずのお恵みを下さったことを感謝いたします。そして、たくさんのお父様が皆さんのために、愛の心から働かれたことも感謝いたします。また、皆さんが天国に入れるように今の立派な信仰・希望・愛のある生活をして教会のために一緒に協力なさることを感謝いたします。これからも一緒に素晴らしい信仰・希望・愛の生活をしつづけられるようにとにも協力していきましょう。どうぞよろしくお祈りします。私はどういいう人でしょうか？ 少し私の歴史をお話ししましょう。

亡くなった父はポーランド生まれ、若い時アメリカのニ



R・チャイコフスキー

(衣笠教会主任)

ニューヨークへ移りました。ニューヨークで生まれた亡くなった母の両親もポーランド出身でした。兄弟は5人でそのうち2人がもう天国へいっています。私は1961年9月3日に初めて日本に来ました。日本語の勉強が終わってから北海道の苫小牧教会(4年間)と夕張教会で働き、1969年に椎間板ヘルニアを患い白梅町の聖ヨゼフ整肢園で手術をうけ、6週間入院してから、三重県の四日市教会に2年ほどおり、その後メリノールの管区長の希望で「心のともしび」の仕事を京都の本部で2年、東京の支部で3年しました。そして、田中司教様と共に1年3ヶ月の間京都教区のために召しだしの運動をしました。(この間桃山教会に宿泊し日曜日にはヒューズ神父様とミサを手伝いました)この後、大分市へ移りネリツク神父様(現在、草津教会の主任司教)と一緒に働き、そこからアメリカに帰ってワシントンのシアトルに住みメリノールの宣伝の仕事をして12年4ヶ月間しまして、今年の1月に再び東京にもどりもう一度日本語の勉強をやり直して今月、衣笠教会にやってきました。

最後に再び神様と多くの京都司教区の神父様(特に衣笠教会前任のウォルケン神父様)と愛する皆さんに感謝を捧げます。これから、天国に入れるよう信仰・希望・愛の精神を失わずに共に助け合ってゆきましょう。

ネパールからナマステ (こんにちは)

Sr皆福芳江さんに聞く



ノートルダム教育修道会のシスター4人が新しい宣教地ネパールに行かれて8年がたちました。そこで、8月6日から23日までバンディプールに行かれた皆福芳江さんに近況をおうかがいました。

——バンディプールの生活は？

バンディプールまではネパールの首都カトマンズからポカラまでバスで8時間。動物も荷物もみないっしょになって行きます。そして、そこから足に自信のある人は約2時間コースの険しい道を、自信のない人は遠回りのゆるやかな道、約3時間をひたすら登っていくとそこがバンディプールです。標高3,000mに位置する町には

人口約2,000人の人が住んでいます。産業は特になし。主に土地のある人は農業を行い、持っている人は小作人で生活しています。他には石運びなど本当に小さな子供までいっしょに働いています。

生活の変化といえば、今年の1月から電気がとおるようになり、朝から晩までどの家もラジオのボリウムをいっしょにして聴いています。だけど貧しい家には電気はきていません。それから電話も一本ひかれました。村の人たちは電話小屋の窓から毎日電話がかかるのを待っていて、かかってくると小屋の回りに子供も大人も集まってみんな聞いています。食生活は1日2回の食事で、とうもろこし、かぼちゃの茎と葉、オクラなどの野菜に米、ダル(豆汁)です。訪問してみても本当にない生活だということを実感しました。

——ノートルダム・バンディプール校について聞かせてください。

学校は9時45分に始まります。40分授業で7時間目まであります。土・日曜日は休みです。クラスは幼稚園生が2クラス。小学生が6クラスです。みんな真剣に感心するほどよく勉強しています。そして新校舎の完成は、子供たちはもちろん村の人々にも希望を与えているようです。

シスターたちの活動は外国人ということもあり、カースト制度の身分の差を考えず誰とでも交流できます。それが、人々に身分の差について考えさせることになっているようです。また、教育は、これからの子供たちの世界観を広げることになるでしょう。そして、ネパールの女性の地位向上のためにもとても必要なことだと思いました。

——最後に、初めてネパールを訪問されてどんな感想をもたれましたか。

印象的な言葉に、「ヒマラヤ山脈は美しいが食べられない」という言葉を村の人から聞きました。本当に貧しく、何もなし。そのため自立のための援助はシスターたちもよく考えてやっているようですが、なかなか難しいことだと思っています。

もう一つ私を感じたことでは、貧しい人たちに共通していることは国とか言語、民族とか越えて、「何もない」ということ。私たちが何かないと言う時は、ある物の中から「ない」という選択をする。例えば「家がない」というけれど現在はアパート暮らしをしていて、さらに今の生活より、より以上の生活を目指して「ない」という言葉を使う。「たらない」という言

葉を使う。だけど貧しい人たちに「ない」といえば本当に何もなし。「たらない」という言葉はだから貧しい人々の中にはないんです。本当に選択の余地がないんです。この消費主義の中に生きている私たちがなにか感覚がマヒしている。これはこわいことだと思いました。そしてネパールは貧しい上にカースト制度というものがあ

り、さらに精神的な貧しさ、圧迫ということも重なる。本当に私はいかにそうだなと思いました。それだけに、学校教育の中で本当に自分たちで努力して学び、そして学んだことを労働力に使い、物をつくるということ自身につけ自立へと向かってほしいと思います。教育は必要なことだと今回始めてネパールを訪ねてつくづく思いました。

みなさまのご援助でバンディプール校は新校舎の建設など一歩一歩、歩んでいます。それは、バンディプールの村の人たちにも希望を与えていると私は思いました。みなさま本当にどうもありがとうございます。そしてこれからもさらに関心をもっていただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

(文責・水島)

わたしたちみんな

アジアのFamily

— 奈良ウオーカソンより —

晴れたノ、晴れたノ、晴れたノ、晴れたノ。台風19号が接近している中、私達のウオーカソンは、晴天に見舞われて行われたのです。今回の送り先きは、フイリピンのインフアンタにおける農村の自立と発展を日指すICDAI（インフアンタ共同体開発運営団体）と、湾岸戦争の影響によって生まれてしまったクルド人難民たちの救済に、日夜がんばるCICCO（国際連合難民高等弁務官事務所）に寄付する事になりました。

奈良のウオーカソンは、奈良県に青年会ができて以来、いつのまにか青年達主催のイベントになってしまい、今では全部私達にまか



あんてな

されているのです。そしてけっこう青年達にとっては社交の場であり、普段あまりり会えない人達と話したり遊んだりできる場として最高の場です。だから来年度10周年を迎えるこのイベントを、毎年みんなが楽しみにしています。それとは裏腹に、毎度の

ことながら準備する側は大変なのです。2月下旬の収益金の送り先き決定から始まって、送り先きとのコンタクト、勉強会。そして勉強会の成果を見せるため、各教会へのどさまわり。当日のミーティング等を経て、9月23日のウオーカソンがやってくるのです。

あんてな



さらに大変なのは、いつも燃えていなければならぬし、いつも送り先きについて祈っていないとやいけない事です。

ある時、送り先きの人に「お金が一番ほしい物ではなく、ほしいのは、共に歩んでいこう」という心。共に励まし合い、生きていくための祈りです。」と言われました。その通りだと思えます。募金活動も他の慈善事業も、そこに心がなければ、祈りがなければ、それは神の前ではすべて無となるのです。兎にも角にも、ウオーカソンは大成功でした。

(文責・MIN)



共に捧る祈り 誰と.....

先号で、アフリカでのミサに気づかり、心から歌う人々の祈りに感動したことを書きました。日本でもこんな経験をしたことがあります。福岡のある教会に招かれて御ミサを始めようと思いましたが、その時です。小学生・中学生位の子供達が声を合わせて歌い始めました。全会衆も声を合わせ、歌い始めました。

思わず声がつまり、開始の挨拶の言葉が出ず「しっかりと」自分に言い聞かせて始めました。とても感動したのです。確かに祈りは感動ではありません。でもここに祈りがあり、共同体があると思つたのです。子供も大人も一緒に讃美の歌を歌おう。小鳥も小川も一緒に讃美の歌を歌おう。音痴の人もだみ声の人も一緒に讃美の歌を歌おう。赤ちゃんもおじいちゃん、おばあちゃんも一緒に讃美の歌を歌おう。

聖歌は上手に歌うことより、美しく歌うこと。つまり心からあふれる祈りであることが大切なのでしょう。心のあふれが一つの祈りの花束になる。それが共同体の祈りです。讃美です。歌です。「共に」と言う、考えが出たところで、ミサは「共なる祈りです」生ける者、死せる者、天上の教会、地上の教会。伝統的言い方をすれば、凱戦の教会、憤りの教会、戦いの教会が一つになって父なる神の栄光をたたえるのです。感謝の祭儀の内容と言葉を静かに黙想してみして下さい。

その祈っている内容、行われている内容はまさに先の3つを含む全教会が、更に全人類、全宇宙さえも含めここに参集し、共に感謝と讃美のいけにえを捧げているのだというのです。よく司祭にミサをあげてもらおうといいますが司祭がミサを挙式するのでなく祭の司会者なのです。司祭は（先の意味を含めて）参与する全てのものの司会者なのです。三位一体の神様もそこにそれぞれの仕方です。神様のそこで御業を参予という以下何んと表現したらよいのでしょうか。次又機会がありましたら、その参予の仕方をどう語っているか、考えてみたいと思います。

お知らせ

教区スケジュール

11月

- 2日 長岡幼稚園25周年
- 3日(日)結婚相談室開設PM1時30分
衣笠・大日山墓地共同墓参
- 4日(休)京都ウォーカーソン
唐崎幼稚園20周年
- 7日 司祭評議会
- 10日(日)希望の家バザー
- 16日 正平協学習習会(全国大会報告)
- 17日(日)教区一斉創立記念ミサ
山国・宇津教会35周年
JOCフェスティバル
親交会例会PM2時
- 22日 彫日みことばをかこう書道
絵画展(西院カトリック会館)
- 23日(日)琵琶湖ウォーカーソン
- 24日(日)黙想会(山科教会)
- 29日 30日黙想会(河原町教会)
- 30日 若青年センター運営委員会

12月

- 1日(日)バザー(四日市教会)
結婚相談室開設PM1時30分

11月10日(日)
午前9時～午後3時
希望の家バザー
▶連絡先
希望の家
☎075(691)5615



- 7日 8日宣教司牧評議会
- 7日 西院カトリック会館1周年記念クリスマスコンサート
- 8日(日)子羊会クリスマスパーティー
- 9日 10日司教ナイス学習会
- 11日 14日司教総会
- 12日 部落問題委員会学習会
- 14日 15日黙想会(伏見教会)
- 21日 クリスマスマミューティング
(聖母中高等学校)
- 24日 クリスマスタブロー(PM5時30分)
(洛星中高等学校)
クリスマス市民の集い

JOCフェスティバル
仕事以外にも
大事なものがあふんや!
—劇、ゲーム、交流—
▶11月17日(日)
PM1時30分～4時30分
▶西院カトリック会館大ホール
▶主催 働く人の家

福音センター発足1周年記念
国本さんの音楽講座(4)
とっておきクリスマス音楽パーティー
日時 12月7日(日)
午後4時30分～8時30分
場所 西院カトリック会館大ホール
参加費 2,500円(食事付)
申込は12月4日(水)までに福音センターへ☎075(822)7123

Y'91年YMCA・YWCA
世界合同祈禱週のご案内
日時 11月9日(土)PM7時～9時
場所 京都YMCA三条本館
●メッセージ「抑圧された者の側に立つ」本田哲郎神父
●音楽のささげもの
問合せ先 ☎075(231)4388
京都YMCA三条まで

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀
貸物一式(仏式可)
聖ヨゼフ葬典社
パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)
京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829

=祈りのこもった素朴な味=
贈ってよろこばれる
修道院製クッキー
ミサ用ブドー酒
(純粋マスカット)
和洋酒
タキノ
〒604
京都市中京区錦小路通烏丸東入
TEL (221)0976-7

同窓会に出席。友達のひとつひとつが結婚して名字が変わっていった。なんとわかりにくいことか。独身者は肩身が狭いと嘆いていた。別姓が認められるのはいつのことか。(N)

